

別紙

(原案の終)

△會社の狂態ニ從業員を監禁せんとす

廿五日の夜、電氣工十川政雄君が俺達兄弟の血をばく吐けりや
必死の運動を耳にして、奮然と俺達の運動に参加せしむるを
「兄弟を見殺しには断じて出来なう。飢ゑを存し共口飢ゑよ
う。死ぬるも共口死を乞ふ。是が彼れ決心であらう。而して彼れが
帰途に就かんとするや、會社は彼れをこゝろへ歸らしめが、無理
矢理に仕らする強要した。其後引續して彼れを監禁しようとし
たが遂に逃げ出して争議団に馳け付けり。今では多数の
兄弟と共に勇敢に闘ひつゝある。町民諸君!! 私達の運動
は一切從業員諸君の自由の協賛と公論に依りて行はれ
る。其は町民諸君と天下公衆の自由の公議に依りて行は
る。然るに會社の行ふ所を見よ其はこそよくとネズミの如く